

# ブドウ「シャイマスカット」のCX-10 による発芽促進

CX-10 を処理することで、GA処理等の作業分散を図ることができる。

## 1. 試験方法



試験区：12月下旬区、1月中旬区、無処理区

処理方法：2020年12月25日及び2021年1月15日に休眠芽に対して、ハンドスプレーを用いて15倍に希釈したCX-10を噴霧処理した。

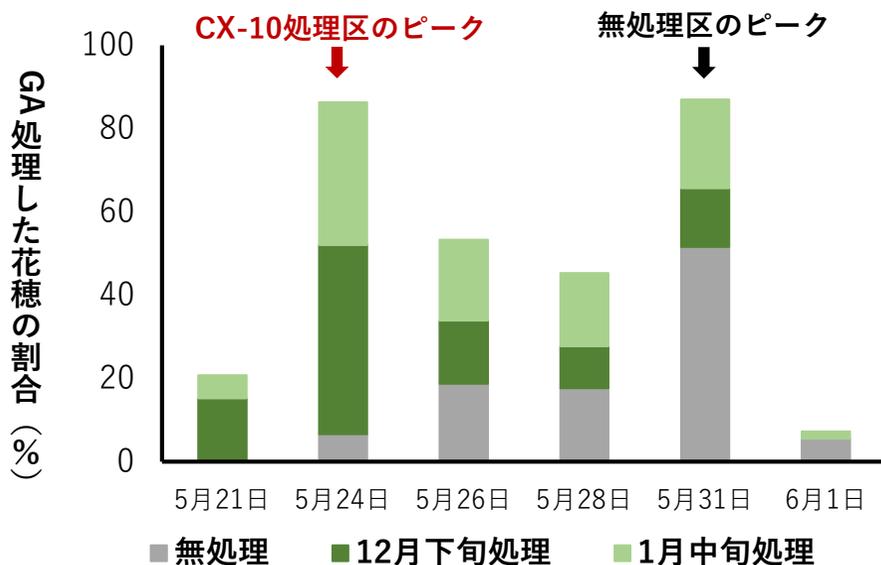
## 2. 発芽日及び満開日（2021年）

試験区	発芽日 <sup>2)</sup>	満開日 <sup>3)</sup>
12月下旬処理区	3月9日	5月24日
1月中旬処理区	3月15日	5月27日
無処理区	3月20日	5月31日

<sup>2)</sup>発芽日：全座の50%が発芽した日

<sup>3)</sup>満開日：80%以上開花した花穂が全体の80%以上になった日

## 3. 処理の違いが第1回目GA処理時期に及ぼす影響



## 4. 果実品質

試験区	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数 (個)	果皮色 <sup>2)</sup> (cc)	糖度 (° brix)	酒石酸含量 (g/100ml)
12月下旬区	734	17.4	42.3	3.1	16.7	0.24
1月中旬区	733	17.0	42.7	3.2	16.0	0.25
無処理区	691	15.2	44.3	3.0	16.6	0.27
有意差 <sup>3)</sup>	ns (全項目有意差無し)					

<sup>2)</sup>山梨県総合理工学研究機構が開発したシャインマスカット専用の収穫適期判別カラーチャートを使用。

<sup>3)</sup>Tukeyの多重検定による (nsは有意差なし、n=3)

CX-10を休眠期に処理することで、発芽が促進され、第1回目GA処理を始めとする主要な結実作業のピークが約1週間ほど前進する。これにより、5月下旬～6月に集中しやすい管理作業の分散化を図ることができる。